

## 校長室から (NO. 32)

### 「どうしてグラウンドにあるのでしょうか」

2月の話です。

1年生の男の子が、時々、「校長先生」とドアをノックします。

「どうぞ、お入りください」と中に通します。

その日見せてくれたのが、グラウンドで拾った貝殻の破片でした。

そういえば、私も子供のころ、グラウンドで見付けた覚えがあります。

二枚貝の痕跡を少しだけ残し、凹凸も消えてなくなりそうな、貝の破片。

### どうしてグラウンドにあるのでしょうか？

おそらく、グラウンドの砂は、山砂です。山から運ばれてきた砂に貝が混じっているということは、かつて、そこは海であった。あの高い山が海の底……。

地形変動の詳しいことは、横に置いておいて、

男の子の見せてくれた貝を一端受け取り、

「遠い遠い昔、山が海だった証。そこで生きていた貝は、化石とも言うよね。

すごい物を見付けたよねー」と言って、その貝の破片を脱脂綿に乗せて、ジップ付きの袋に入れて、手元にもどすことにしました。あたかも、貴重な化石のように。

すると男の子は、両手でうやうやしく受け取り、まるで、宝物のように掲げながら、ほほを紅潮させ、部屋を出ていきました。

貝の破片を特別な物として感じれる素敵な感性に、少しは応えてあげれたのかなと、うれしく思いました。

地球創世へのロマン、宇宙誕生への不思議に魅力を感じ、探求できる子供が育つといいな。

これが私のロマンです。